

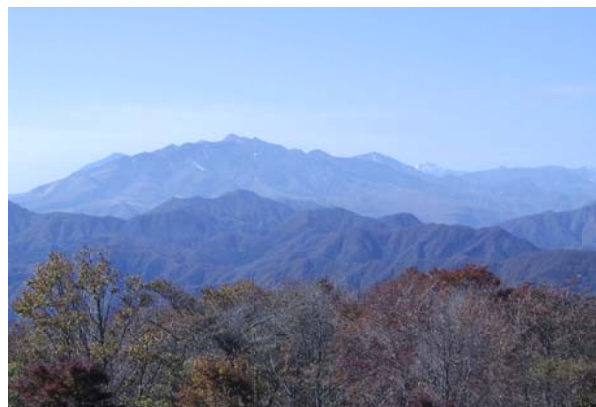
森林官からのあたり

日光森林管理署 川治森林事務所 森林官 櫻井 崇裕

川治森林事務所は、栃木県の北部に位置する日光市（旧藤原町）に所在し、鬼怒川上流の森林約5,700haを管轄しています。

「川治」は、会津西街道の宿場町として栄えた歴史があり、江戸時代から続く川治温泉は、山あいの風情ある温泉として親しまれています。

管内には、日本橋から五十里の地点ということが由来とされる五十里ダムや川治ダムがあって、首都圏への水や電力供給源となっており、周辺の国有林はこのようなダムや河川に安定した水量を供給する重要な役割を担っています。



景観整備箇所から日光連山を遠望



紅葉時の「日塩もみじライン」

また、紅葉の名所として有名な「日塩もみじライン」沿線はスキーや登山の対象として、四季を通じて多くの人々に利用されています。「日塩もみじライン」は、昭和47年に開通し、日光市と那須塩原市を結ぶ道路沿線には、彩りを添える各種のモミジが植栽されました。

しかしながら、40年近くを経過し、繁茂する樹木によって眺望が妨げられる状況になったため、平成12年から14年にかけて、当時の藤原町、県道路公社及び当署で協議会を設置し、学識経験者の意見を聞いたうえで景観を確保する森林整備を実施しました。この結果、7年を経過した現在も、日光連山を一望する眺望は確保されています。今後は、沿線のモミジに陽光を多く当て、色づきを良好にするための検討も必要ではないかと考えています。

かつてこの道路沿線には4箇所のスキー場が営業していましたが、利用者の減少に伴い2箇所が閉鎖されました。現在、スキー場閉鎖から8年を経過し、グレンデの跡には、周辺のカラマツ人工林から飛散した種子が発芽し、2～3mにも育った箇所が広範囲に見られます。その一方、豪雨によってグレンデ箇所が洗掘され、表土が流出する状況も発生していました。

このため、昨年10月、ボランティアの参加を得て現地の転石を活用した水路を作成し、流水を下流に安全に流す工事を試みました。

当日は、土木作業の経験者約40名に参加いただき、重機も利用して、水路の整備、土砂流出防止の木柵設置を行いました。施工地の下部は、豪雨の際の表土の流出が抑えられることで、周辺に生育しているススキやカラマツによる緑化が期待できます。

ボランティアの力や自然の再生力を活用した、森林再生のモデルとなることを期待して、定点写真を撮りながら、経過を観察しているところです。

日光市は、世界遺産となっている東照宮を始めとする二社一寺や奥日光で有名ですが、川治管内にも特色ある豊かな森林が広がっています。

地域の自治体、関係機関及びボランティアと連携して、これらの素材を生かし、地域の活性化に少しでも役立つように取り組んでいきたいと考えています。



ボランティアによる木柵・水路設置